

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「スッキリ解決 !Q&A」



Q1：支援対象児への漢字の書き順をどこまで指導したらよいか？

- A1：
- ・学級担任と評価基準を確認する。
 - ・空間認知が弱い、形の識別が難しい、手と目の協応運動が苦手等、何らかの困り感が予想される。大まかに書いていけば正解または準正解にする。
 - ・書き順や文字の形にこだわらず、できているところをほめる。(部分を認める)
 - ・少しずつ評価基準を上げていく。

Q2：文字を丁寧に書こうとしない子どもへの支援方法は？

- A2：
- ・ある小学校の例である。子どもが「丁寧」の意味を理解できていなかったことが分かり、担任が「丁寧」とは、「ゆっくり一線、一点を書くことである」と実際に書きながら説明をした。特に書き始めと書き終わりをゆっくり書く大切さを伝えたら、心の中で「1、2、3・・・」と声を出すことで「丁寧」に書けるようになった。
 - ・2ページ目以降のお手本になるよう、ノート of 1ページを丁寧に書くようにする。

Q3：授業中の手遊びや落書きをどこまで認めたらよいか？

- A3：
- ・見通しがもてずに不安な気持ちを和らげていることも考えられるので、授業を妨害していなければ、一つ一つ注意を与えず、手遊びをしていないときに、「いいね！」というメッセージを送る。
 - ・注意の集中・持続ができるように、授業の流れと今何をするのかを分かるように提示する。より集中できる座席の位置にする。
 - ・授業を短いユニット（15分前後）に分ける。ペア学習やグループ学習等の多様な学習形態を用意したり、聞く時間よりも考える、作業をしたりする時間を増やす。

Q4：過剰な身体接触を求めてくる子どもへの対応は？

- A4：
- ・愛着形成に問題のある子どもの場合は、要求を全て受容するのは後手の支援であり、要求がエスカレートする（愛情欲求エスカレート現象）ので、大人が主導権を握り、選択肢を提案したり、「〇〇しよう」と別の行動に誘ったりする。

Q5：ICTを活用した授業で配慮することは？

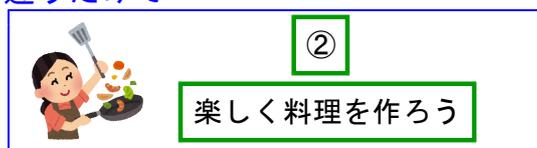
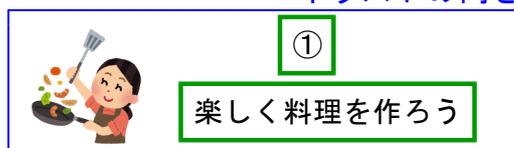
- A5：
- ・教師に注目してほしい場面や子ども同士の発表の場面では、電子黒板の情報が不要な刺激となっているときは、スライドの情報を暗くし、何も映さないようにして、必要な箇所に注目できるようにする。
 - ・電子黒板等で説明するときは、指示棒（先が目立つもの）を活用して、より注目する箇所を強調する。（人は動く物に注目する）



とれたて直送便



～イラストの向きが違うだけで・・・～



重要な文字情報が右にある場合、イラスト①は、子どもの目線がイラストの左側に移ってしまいます。イラスト②は、イラストと文字の両方に注目することができます。視覚情報は有効な支援ですが、文字の色、フォント、大きさ、イラストや写真の内容、数、大きさ、向き等に配慮することで、その効果に大きな違いが生じます。一手間を加えましょう！